

佐那河内小学校  
「学力実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：倉橋誠一 教頭：森永直美  
堀井 晴美 教務・国語主任：清水 愛  
特別支援コーディネーター：和田久美子  
人権教育主事・低学年推進員：川上可南子  
高学年推進員：山崎 仁 算数主任：福田明美

校長

倉橋 誠一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的な力が定着してきている。与えられた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●どの学年も身に付けた知識・技能を活用して問題を解決することに課題がある。語彙が少なく、読解力に影響している。学力差が大きい。	・基礎的・基本的な力を確実に身に付け、様々な学習場面や生活で活用することができる。 ・語彙を増やすとともに、適切な言葉や漢字を使って、文章を読んだり書いたりすることができる。	・小テストやドリル学習などを行い、基礎的・基本的な力の定着を図るとともに、個々の到達度を把握した上でTT指導やタブレットを効果的に活用しながら、個に応じた指導をする。 ・様々な文章にふれさせたり、語彙を広げたりするために、読書を奨励するとともに、日記や作文、授業での書く活動等を多く取り入れ、表現や語句、漢字が適切に使用できるよう指導する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習事項をもとにして考え、自分の言葉で表現しようとする児童が少しずつ増えてきた。タブレットを活用して、課題解決のために必要な資料を適切に選択する児童が増えてきた。 ●筋道立てて説明したり、友達の考えを受けて自分の考えを再構築したりする力に課題がある。	・既習事項をもとにして考え、自分の言葉で伝えたり、理由などを説明したりすることができる。 ・友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、それに対する感想や意見を、根拠や理由を明らかにしながら話したり書いたりすることができる。	・授業では、児童が考えを書いたり、交流したりする場を設定する。(書く活動を重視する) ・「聞き方・話し方ナビ」や思考ツール、考えを表現するための手引き等を活用し、どの児童も意見を言ったり説明をしたりすることができるようにする。 ・ペアやグループ等の学習形態を工夫したり、タブレット、ホワイトボード等を活用し考えを深め、学び合う学習集団づくりに努める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。 ●課題解決や苦手を克服するために、自らの学びを振り返り学習計画を立てて取り組んだり、粘り強く続けたりすることに課題がある。	・学びを振り返り、自らの課題を解決するための計画を立て、実践することができる。 ・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさを感じ、自分をより高めたいという意欲をもつことができる。	・主体的な学びとなるよう、課題の提示の仕方を工夫する。また、振り返りの視点を示し、児童自らが学びについて振り返り、満足感と次時への意欲を高めることができるようにする。そして、児童の振り返りと教師の見取りを指導に生かしていく。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させたり、読書の習慣化を図ったりする。 ・ICTを効果的に活用し、学習に対する興味・関心を高める。 ・優れたノートを紹介したり学習の仕方を示したりすることで、自主学習の質を高める。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

